

新署長さん こんにちは

多治見税務署長

あさ い ひ で ひ と

浅井栄人氏 (59歳)

インタビュー

インタビュー

広報委員長：井澤 秀明
広報副委員長：大嶽 利彰
会 長：大脇 慶二
副 会 長：小倉 道生
高垣 守宏

本日は、この7月の定期異動で多治見税務署に着任されました浅井署長さんに広報委員長及び正副会長がインタビューさせていただきます。

—前任地はどこですか？ また、いままでどんな仕事をしてみえたのですか？

静岡県にある下田税務署で署長をしていました。

税務職員となった当初は徴収部門に配属されましたが、その後個人課税部門に変わり、所得税調査を中心に担当していました。

—ご出身地を教えてください

生まれも育ちも名古屋市です。現在は名東区に住んでいます。

税務署の転勤で、中津川市に3年、高山市に2年、静岡市に1年、下田市に1年住みましたが、どこも楽しい思い出がたくさんあります。

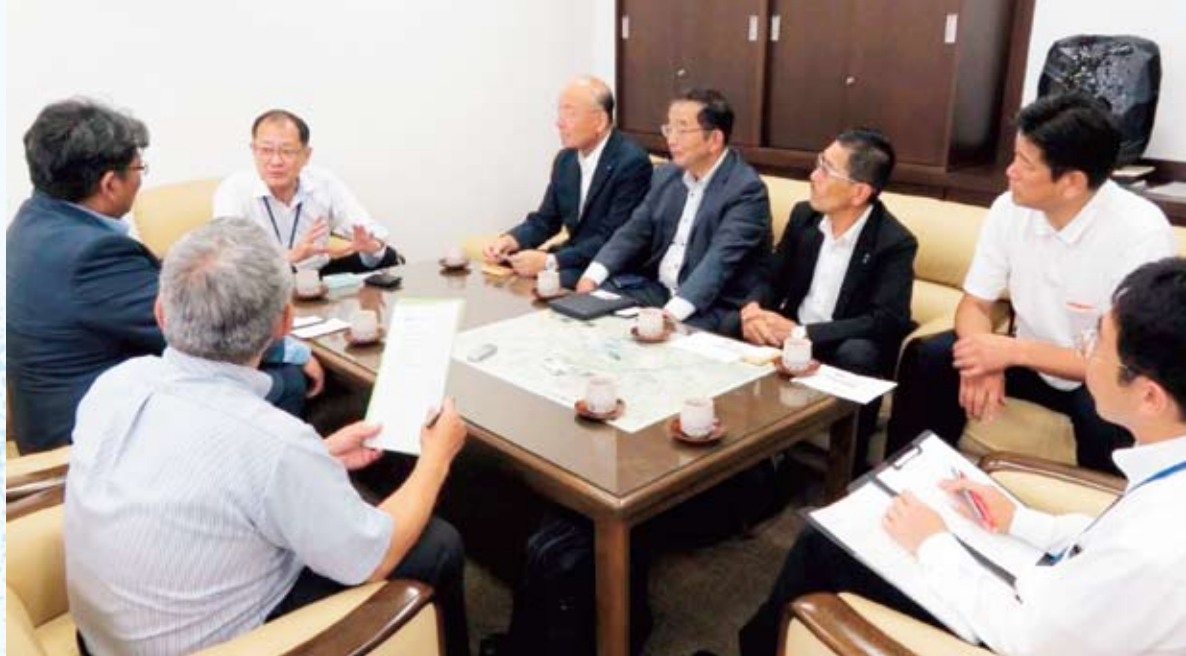
—東濃地方の印象はどうでしょうか？

陶器の町というイメージがあります。それと、実は子供の頃に名古屋の小学校から瑞浪の化石掘りに来たこともありますよ。

中津川に住んでいた頃は元気な20代だったので、ドライブや食事で多治見税務署管内をよく訪れており、青春時代を過ごした東濃地方は非常に思い出深い地であります。今はイオンやアウトレットなどにも行っています。

仕事やプライベートも含めて多くの人と関わらせていただきましたが、東濃地方の方は優しくて面倒見の良い方が多いと感じています。

また、わが職場の職員にも東濃地方の出身者は多



く、名古屋へのアクセスが良いこともあって居住者も多いので、非常に身近な地方だと思っています。

ー人生観・座右の銘をお伺いします

人生観というような立派なものは特にありませんが、基本的には楽しくポジティブな思考で過ごしたいと思っています。苦勞することもあります。多くの苦勞は何年かすれば笑い話になることと思込んで、あまり神経質にならず、落ち着いて自然体であろうと考えています。楽しくやっていたら若い職員とのコミュニケーションも取りやすくなるのかなと思います。ケセラセラ、お気楽なタイプだと自分では思っています。

敢えて座右の銘として挙げるのならば「うんがいそうてん雲外蒼天」(今は苦しくても、困難を乗り越えればその先には晴れやかな未来や好結果が開ける)でしょうか。

ー趣味・健康法を教えてください

趣味といえるほどではありませんが、読書やスポーツ観戦が好きです。

年齢を重ね以前ほどの読書量はありませんが、1週間で2～3冊は読んでいた時期もありました。今でも300冊くらいは自宅に本があるので、家族に邪魔だといわれる時があります。

スポーツは高校生の時にサッカーをやっていて、30歳過ぎまでは地元のチームでたまにプレーしていました。今年はワールドカップ開催年だったので、朝早起きしてテレビで観戦するのが楽しみでした。早起きが全く苦にならない年齢になりました(笑)。サッカーだけでなく、野球やラグビー・バスケットなども生観戦したりします。夏の間は暑すぎて控えています。

健康法も特にありませんが、なるべく歩くように努めています。通勤も含めて週に4～5万歩を目標にしています。これも夏の暑い間は控えめになっています。

ー税務行政の方針は？

私どもといたしましては、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という使命を果たすために、グローバル化やデジタル化の進展等の経済社会の変化に柔軟に対応し、様々な課題に的確に対応していくことが重要であると考えております。国税庁が推進する「税務行政のDX（デジタル・トランスフォーメーション）」を更に前に進めるために、「納税者の利便性の向上」、「課税・徴収事務の効率化・高度化」に取り組むとともに、法人会をはじめとする関係民間団体の皆様や関係省庁とも連携を図りながら、「事業者のデジタル化推進」にも取り組み、社会全体のDX推進に貢献してまいりたいと考えております。





体感をもって活動できる大事な団体だと思っています。近頃AIの台頭が言われていますが、やはり最後は人と人の繋がりにはかなわないです。

また、税制が頻繁に変わったりして税務署の広報が行き渡らない時、頼りになるのは法人会主催の身近なセミナーです。気軽に聞いてもらえ、私たちも現場の声を知ることができるのでありがたいです。

多治見法人会におかれましては、永きにわたり「税」の良き理解者、「地域の税のオピニオンリーダー」として、また、良き経営者を目指す団体として、会員の皆様の自己啓発を積極的に支援し、納税意識の高揚と企業経営及び社会の健全な発展に寄与してこられ、大変心強い存在であると考えています。

そして、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という国税庁の使命を果たすためには、法人会の皆様方のお力添えをいただかなければ到底成しえることはできません。

税務署としましても、皆様方と十分に意思疎通を図りながら、更なる良好な信頼・協調関係を築いていきたいと考えていますので、今後とも税務行政に対する力強いご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

特に、現金管理等に伴う社会全体のコスト削減を図って、納税者の利便性の向上や事業者の業務のデジタル化を実現する「キャッシュレス納付の推進」は重要と考えております。

引き続き、取り組みへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

ー今後、法人会に期待されることは？

私は法人会活動のいいところは、異業種交流・地域交流だと思います。

各市町で固まりがちなところを、東濃地方全体で一

浅井署長は伊豆下田から転勤してこられ、「下田市応援大使」の名刺を配り観光をPRされました。また、国税局で缶バッジを作ることができるそうですので、税を考える週間に活用したいものです。本日はお忙しいところありがとうございました。

